

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カフトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	〒851-3509 長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2		
自己評価作成日	2023年 1 月 10 日	評価結果市町村受理日	2023年 3 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topjisyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フロー薬院2F		
訪問調査日	2023年 2 月 6 日	評価確定日	2023年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ここ西海市では自然豊かな環境の中、海と山に囲まれこの横瀬地区では地域住民方々には温かく見守って頂き、地域交流も充実しており気軽に声を掛けを頂き、時には地で採れた野菜や果物の差し入れをして頂いております。とても感謝の気持ちでいっぱいです。またこの横瀬の地域に開かれたホームを目指し、入居者様との出会いを大切に、楽しく生活できるように日々スタッフ一同ケアの質の向上に努めております。このコロナ禍に於きまして、行動も制限されている中、何か少しでも楽しい気持ちをもって頂けるように思考を凝らして、邁進してまいりました。来年度も今年度より進化した活動が出来ればと思今後とも努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームよこせ”は西海市西海町横瀬郷にあり、地域に溶け込み、地域の一員として生活されている。コロナ以前は馴染みの商店の特売日に、ご利用者全員で砂糖や味噌の買物に行かれており、現在も感染状況に応じて個別の買物にお連れしている。コロナ禍も保育園児とオンライン交流を行い、子ども達の可愛い踊りを楽しまれ、地域の方から野菜や果物の差し入れを頂き、感謝の思いを伝えている。日々の生活は穏やかで、猫の福ちゃんも一緒に寄り添い、癒しの時間になっている。ホームに畑があり、ご利用者と種まきから行い、5月は豆の収穫、10月は大根の種まき、11月は玉ねぎ植え、12月には大根の収穫を行い、季節を感じながら役割を担って頂いている。日々の食事も大切にされており、3食手作り、季節料理を楽しみ、ご利用者も食事の時のおしほり曇みや饅頭作り等を手伝って下さる。運営者も職員の実状を理解し、様々なサポートをして下さっており、管理者と元主任を中心に職員が結束し、コロナ禍においても楽しみを増やす取組みを続けている。今後もご利用者個々の日々の役割や楽しみを増やしていくと共に、地域貢献（地域交流）を続けていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や休憩室に掲示しており、職員が目にする場所に掲示しており、毎日の業務に於いて周知徹底を図っています。	「共に助け合い共に生きる」という理念があり、ご利用者も包丁でじゃが芋の皮むきをしたり、もやしのひげ取りをして下さる。玄関や窓越しの面会を通して家族との信頼関係を深めており、退居後を含めて「出会えたことの喜びとこれからの一生を大切に」した関わりを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で直接的な交流は難しかったが、クリスマスカードや貼り絵のプレゼントなどによる交流が行う事ができた。また、買い物やドライブを行ったり散歩中に地域の方との挨拶や会話をすることで地域交流ができた。	コロナ禍も消防団や地域住民の方々と消防訓練ができ、市道清掃も継続して参加している。保育所との交流も継続し、ご利用者が手作りした貼り絵をプレゼントし、子ども達からのメッセージを頂いたり、保育所行事をタイムリーにオンライン配信して下さり、楽しいひと時を過ごすことができた。地域の方から野菜や果物等の差し入れがあり、小学生が毎月の便りを投函しに来て下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍に於いて地域貢献はほとんどできていないが、地域行事の中で市道清掃に参加することで地域貢献が少しできたと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍に於いて文書にて報告を行い、行政とは電話にて情報共有を図り、地域の方々とは実際に顔を合わせ、ホームの現状をお伝えし、情報共有を図っています。	コロナ禍は書面会議を行い、ご利用者の生活状況や行事等を書面で報告している。地域の方や保育園には管理者が手渡し、近況報告を行い、コロナ禍の生活に対する労いの言葉を頂いている。それ以外の方には書面を郵送しており、今後も感染状況に応じてホームでの開催を検討予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、電話や文章などで連携を図り情報共有に努めています。	管理者が市役所を訪問し、ワクチン接種の申請や処遇改善加算の書類等の相談をしており、電話でも相談している。生活保護に関する行政との懸け橋をさせて頂き、適宜アドバイスを頂いている。地域包括から入居希望の方の相談があり、入居までの期間も、介護支援専門員が家族の方に生活状況等を電話で確認している。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。とスタッフ間で共有理解をしているが、玄関の施錠はアニマルセラピーの一環で猫を飼っていることもあり、脱走を阻止するために行っています。	「身体拘束は絶対にしない」方針であり、認知症の理解を深め、基本理念と身体的拘束等適正化のための指針で日々のケアを振り返っている。スピーチロックに繋がる言葉を共有し、ご利用者の自由を奪わないケアの在り方も検討している。内部研修や長崎県高齢者権利擁護養成研修を受講し、職員会議の際に身体的拘束適正委員会も継続している。今後は虐待防止委員会も開催していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でコミュニケーションを図り業務にあたり、会議等で内部研修を行っていますが、言葉によるスピーチロックな部分もあり気づかないで行っているのが現状です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人格人権を尊重しケアを行っておりますが、権利擁護については十分な学びを行えているとは言えず、今後は社会福祉協議会より助言を受け学習したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや入居申込の時点から、施設環境から一部契約に内容について説明を行い実際に入居の契約時は十分に説明を行わせて頂きます。また疑問点については、丁寧に対応させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へ毎月送っているお便りに各担当者よりホーム内での様子を写真付きで送らせて頂き、時には感謝のお言葉を頂き、スタッフ一同モチベーションアップへ繋げております。	コロナ禍も市内等の感染状況に応じて、家族と玄関や窓越しの面会を行っている。ホーム便りを作成し、電話で家族と情報交換（暮らしぶり）を行い、日々の生活や行事等の要望を伺っている。病院受診の同行時に家族と情報交換できる方もおられ、体調変化時の対応方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見交換が行われていますが、まだまだ十分とは言いきれない部分もあると思います。	管理者は常にホーム運営とスタッフに気を配り、運営者との情報交換に努めている。業務の見直しも継続し、始業時間を30分遅らせ、入浴がスムーズにできるようになった。運営者は明るいお人柄で、毎月の会議に参加して下さる。職員のストレスを理解し、勤務希望や給与、物品購入などの要望を受け止めて下さり、「できること」「できないこと」「節約が必要なこと」等の説明をして下さる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度相談に応じて対応に努めているが、現状では十分とは言えず、個々の向上心を持って働けるよう努力が必要と考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けているが、実際にケアに反映されているのかと言われると、自信を持って言えないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度もコロナ禍であまりできていないのが現状で、福祉施設連絡協議会へ参加し、交流に参加させて頂いています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された方には不安がない様に声掛けや傾聴を行い、困っている事、ご本人のお気持ちや要望を把握し、ご家族の方にも聞き取りを行い関係を築くように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネージャーが中心となり傾聴しケアプランへと反映させて頂きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の要望等をお聞きし、スタッフ間でも情報の共有を図り、ケアへ繋げて行けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念を念頭におき、洗濯畳みや調理の下ごしらえの作業をスタッフと共に協力し合いながら、信頼関係を築ける様に努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、常日頃からお電話やお手紙等で近況を報告し、入居者様へは会話の中でご家族様の話題を盛り込んで会話を行う事で、共に支え合っている関係づくりに努めております。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	このコロナ禍でもあり馴染みの方に合う事にも制限があり十分に行えることが出来ていません。今後の課題と考えています。	職員も同行し、家族と一緒に墓参りができ、ご本人が安堵される様子が見られていた。ドライブの際、人が少ない時間にナフコや商店で買物し、病院受診の際に馴染みの方と近況報告し、喜ばれている。コロナ以前は地域行事や馴染みの商店にお連れしたり、家族と外食に行かれていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を把握したうえで、食事の席の配置を配慮し支え合える様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、アルバム等を作成しお渡しをしたり、何かあればご相談に応じさせて頂くようにご家族様にはお伝えし、またホーム外でお会いした際には近況報告を互いに行える関係作りが築けて行けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進行した方の希望意向を把握するのは難しいが、コミュニケーションを大切にして笑顔のある生活が送れるよう努めています。	入居前に病院訪問（窓越し）等を行い、リモート面会もしている。ご本人と家族の想いを理解し、医師や看護師からもお話を聞き、サマリーも頂いている。日々の生活で何気ない会話や仕草、表情等をスタッフ間で共有し、ご本人の特技、趣味等も把握して、日々の生活に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全スタッフでご本人やご家族様にお話しをお聞きし、情報把握に努め、全スタッフで共有するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの表情や会話や仕草、体の動きなどで把握に努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様、主治医との話し合いで介護計画を作成し、スタッフ会議等で意見を出し合いより良いケアへ繋げて行けるように努めています。	介護支援専門員、管理者、スタッフ全員でアセスメントし、情報収集している。生活歴（仕事・趣味・特技等）と共に、洗濯・買物・調理などを含め、いつまで行っていたのか等も教えて頂いている。有する能力やお好きなことを計画に盛り込み、移動時の留意点なども記載し、日課表も作成している。	①今後も認知症の理解を深め、ご本人の思いを大切にした自立支援に繋げていくと共に、アセスメントの中の「行動の原因」を更に分析し、追記していく予定である。 ②個々の活動（ADL・IADL）の「ご本人の要望」「できそうなこと」を追記し、日々の役割を計画に盛り込む予定である。 ③全ての職員と介護計画を共有し、ゴミ箱作りや洗濯物たたみなど、計画に盛り込まれた内容を一緒に行う予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活日誌等へ変わったことや新たに分かったことを記録し、最も大切にスタッフ間で即共有したいときは申し送りノートに記載し、情報共有と統一ケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者様の状況のによりその方にあったサービスを検討するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に於いて、今年度も制限され難しい状況ではありましたが、学校や保育所・地域の方々との関係性が途切れないようにこちらから出向き努力しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様でかかりつけ医をご希望に沿い、受診された際の状況と主治医の診断情報をご家族様やスタッフ間で情報共有に努めています。	日々の体調確認を行い、気になる事は家族に連絡し、早期に受診している。受診時は職員や家族が同行し、日々の体調などを医師に報告し、体調に応じて減薬に繋げる事もできている。体調変化時は家族が同席し、医師からの説明を聞いて頂いており、かかりつけ薬局との連携もできている。歯科医師（歯科衛生士）の往診があり、日々の口腔ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時にはホームでのご様子をできるだけ、わかりやすく説明し、必要に応じては、電話にて状況報告を行い主治医より指示を頂くこともあり、ご相談しやすい環境が作れていると思います。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診時、スタッフが同行し情報共有と相談を行い、時には電話にて状況を伝えて指示を受けています。入居者が入院中にはソーシャルワーカーとの情報共有を図り、医療機関との関係作りに心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居頂く際に看取りや終末期の対応を行う事のできない現状を十分にお伝えします。また、入院時は、スタッフ・家族・主治医と話し合いを行います。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多い。現状は往診体制が無く、看護師が勤務しておらず、ホームでの看取り支援はできない事を入居時に説明している。医療ニーズが高い方は適宜医師に相談し、入居ぎりぎりまで家族と協力し、誠心誠意のケアが行われている。今後は訪問看護や往診が行える病院との連携を模索し、ホームでの終末期ケアの在り方を前向きに検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルやスタッフの連絡体制を基に緊急時に対応している、また今後もより良く対応できるように会議等で備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や災害については定期的にスタッフ会議等で訓練を想定したシュミレーションを行ってきましたが、この2年間地域自主防災組織の活動はなく、今年度も活動できないまま過ぎてきましたが、今年は消防訓練を地域消防団との合同訓練を行う事が出来ました。	地域自主防災組織に入っており、コロナ前は定期的（年1回）に集まり、1人暮らしの方のマップ作りも行われた。ホームでは毎年11月9日（防災の日）に、消防団や地域の方と夜間（19時）の訓練を行っている。米、レトルト米、飲料水、飲料水以外の水、食料（缶詰、即席味噌汁、カップ麺等）、懐中電灯、停電時の補助電源（45分使用可能）等を準備し、電気水道工事業者「やまでん」から発電機を貸与する手配もできている。防災チェックを毎日行い、雪対策で貯め水等もしている。	ホーム前の道路に消火栓が設置された。今後もマニュアルを変更し、実際の訓練に活かすと共に、BCP（事業継続計画）の作成に繋げていく予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけを務めています。難聴の方も多くつつい大きな声で伝えてしまうこともあるが、配慮することを心掛けています。また随時振り返りを行っています。	ご利用者個々の行動や心理を丁寧に観察し、さり気ない個別ケアを続けている。方言も使いつつながら、笑顔で丁寧な言葉遣いで会話するように努め、トイレ介助の際は、他の方にわからないように配慮している。ひとつ屋根の下での生活であり、家庭的な雰囲気大切にしながらも、慣れ合いになり過ぎないように注意している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフがゆとりを持って、ご本人と居室や入浴時にゆっくり話を聴き希望を聞き出し自己決定して頂くように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活習慣を大切にケアを行っています。食事でも決まった時間に食べたくない方は遅らせて頂いてもらっています。今後もそれぞれの方が希望に沿った過ごし方ができる環境作りに努めて行きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選ぶことのできる方には、一緒に選んで頂いたり、気温に応じてできない方には一緒に声掛けを行い更衣を行って頂いています。また洗面所にて整髪も見守りながらして頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や季節の食材、行事食メニューなどにし、目で楽しむ事も実施できており、準備や片付けも積極的に手伝って頂いています。	管理栄養士が作成した献立を一部活用している。料理内容の見直しも行い、社協の管理栄養士に献立チェックを依頼している。ご利用者とホームの畑のお芋や大根を収穫し、ツワの皮むき、じゃが芋の皮むき、饅頭作り、下膳、テーブル拭き、茶碗洗い等をして下さる。刺身が苦手な方は煮つけに変更し、揚げ物が好きな方も多く、要望を叶えている。食事前に嚥下体操を行い、嚥下状態に応じて刻みにする方もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は十分に把握できているが、水分摂取については、なかなか飲んでいただけないため、ヨーグルトやジュース・ココアを選んで提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアが出来ておらず、歯科往診に希望者のみ見て頂いています。今後も口腔内の清潔保持に努めます。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表での把握を行い、随時声掛け誘導を行い、失禁を減らせるように努めています。	失禁予防体操を取り入れている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、パッドの必要性の検討も続けている。排泄感覚や、ご利用者個々のしぐさを察知し、個別のトイレ誘導を行い、陰部清拭は毎朝行っている。今後もケアの質を上げると共に、ご本人の真意の理解を深めながら、チームケアを続けていく予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分補給を声掛けを行います。十分には摂取できておらず、体操や屋外の散歩などを心掛けスタッフと一緒に頑張って頂こうように努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴好きな方が多く、体調が悪かったり、ご本人のタイミングじゃない時は無理強いする事なく時間をずらすか、翌日に入ってもらっています。	月～土曜日を入浴日にしており、週2～3回は入浴できるようにしている。希望時は入浴でき、便失禁の際はシャワー浴を行っている。お風呂好きな方が多く、湯舟に入れる方もおられ、ご本人の希望でシャワー浴のみの方もおられる。入浴時は職員との談笑や歌を楽しまれ、柚子湯等もされている。できる範囲はご自分で洗って頂き、希望に応じて同性介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安を訴えられて眠れない方に対しては、寄り添い傾聴したり、マッサージを行い落ち着いて頂き休んで頂けるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時などは、その都度申し送り帳にて報告し、把握に努めており、服薬前は確実に名前の確認とスタッフ間で声掛け確認を行い、誤薬を起こさないように努めています。また、錠剤の飲めない方は粉にするなどして対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日常の中で、その方の生きがいを役割として、洗濯物を干したり畳んだり、野菜の皮むきなどできる方がスタッフと共に行い、できない方も一緒にその空間で、会話に交わって生活を送られています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添えているとは言えないが、コロナ禍に於いて十分な外出支援は行えていないもののドライブやお花見を不定期に行う事が出来ました。	コロナ禍も日向ぼっこや散歩、畑で野菜の収穫をされている。近くの公園にドライブし、花見（桜・秋桜等）等を楽しまれ、職員と買物に行かれたり、職員と家族も一緒にお墓参りにお連れできたり、家族と美容室に行かれる方もおられる。 コロナ以前は地域のお祭り、大島大橋公園などのドライブと共に、自宅でお仏壇の手入れをされる方もおられた。馴染みの商店の特売日に、ご利用者も一緒に砂糖や味噌の買物に行かれていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望と一緒に買い物へ行き、購入する際は、スタッフの支援のもと購入されています。また、お金を持つことの難しい方については、ご本人の了解を得て立替金として必要なもの購入していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話を希望され、ご家族様へお繋ぎすることもあり、ご家族様へお便りや年賀状をお書きになり、そのお手伝いを行いました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にソファを設置し、それぞれ好まれる場所でゆっくり過ごされ、壁面には季節に応じたものを張ったりしています。	玄関のソファに座って外の風景を眺めたり、廊下の壁に貼っている花見の写真や饅頭作り等の写真を見ながら会話のきっかけにしている。元職員（ケアマネ）の方が来訪し、写真の周囲に「うまか」等の言葉を書いて下さっている。ご利用者同士の関係に配慮し、リビングのテーブルの配置を工夫しており、職員とゆっくり会話したり、日々の活動（洗濯たたみ、調理、テーブル拭き等）を一緒に行っている。西日対策で日差し除けカーテンを利用し、空気清浄機や加湿器等も活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関や廊下にソファを設置し座ってテレビを見られたり、日向ぼっこをされ気軽に利用されています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの写真やタンスを持って来て頂きご本人が落ち着かれる空間づくりに努めています。	居室は明るく、家族の写真や家族からの寄せ書き、お孫さんの書いた似顔絵、絵葉書を飾られている。タンスやテレビ等も持ち込み、高校野球や相撲等を見られている。手作りのブラウスやベストを着られる方もおられ、得意な裁縫でスポンのほつれ縫いやゴムの入れ替えをして下さる。ご利用者同士で1つの居室に集まり、ベッドに座って会話を楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『便所』・『トイレ』・『おしっこ』と書いて入居者様がわかりやすく表示するように工夫しています。		